

セミナー2 パート1 下元佳子先生セミナー 理解度評価 平均4.3点 /5点満点

No.	一番印象に残った内容
1	・ノーリフティングケアが浸透することで、他のケアも全体的によく ・数年後を見こして、今、変わらなければ間に合わない
2	
3	PDCAのサイクルの必要性を再認識しました。施設に戻り明日から職員の気づきを集め1つの事に対してPDCAを取り組み、何に対してもPDCAを行う考えを習慣になるよう計画を立てようと思いました。
4	高知県での取り組み、関心致しました。北九州市でも意識を高くもって、支援させて頂きたいと思いました。
5	取り組みに対しての現場管理者の意識の統一
6	普及のためへの取り組み方
7	業務の効率化を図り生産性の向上をはかる。経験を問わない手法に変え、少数対応可能な業務改善の必要性。
8	基礎教育をしっかり行っていく ヒヤリハットをたくさんあげる
9	忙しさにとらわれず、ノーリフティングをとり入れる組織作りが大切だと感じました。
10	取り組みへの悩み、定着しない時の対処について、組織の教育で価値観や目的を共有して取り組む重要さに気が付いた。
11	マネージメント手法について
12	リスクマネージメントの大切さ
13	リーダー(施設長)の大切さ 取り組みのブームの話は残念ながら共感しました。おむつ外しよくやったな…と思いますが、今は全くやってませんがノーリフティングをしっかりと浸透しているいろいろなことを取り組みたいなと思います。
14	管理者が伴走して現場に浸透させてノーリフトケアを実践したいと感じました。
15	ノーリフティングケアの技術向上のみならず、目的の共有、リスクマネジメント(組織作り、業務※腰痛予防)
16	ノーリフトが1つのツールとなり様々な場面での業務収集につながる
17	具体的な取り組みの実践について具体例もあり分かりやすかったです。 下元先生の数年単位の大きな取り組みや考えについてもう一度聞きたいと思いました。
18	
19	技術指導だけではリフティングケアは定着しない。眠りリスクセンサーコール、インカムなどの機器定着はノーリフティングケアとリンクしている
20	ノーリフト研修を行っていますが、教育計画など上手く計画出来ていませんでした。 しっかり計画を立て、取り組んでいきたいと思っています。 マネジメントも考えて行動していきます。
21	復習ができてよかった
22	特養で9割、老健で8割の取組が行われているという事。 利用者中心から介護者との双方への効果、そして労働安全へのシフトチェンジ。 様々な取組の実際、少ない人数でできる業務、経験を問わない手法…すごいですね
23	取り組む事で利用者、スタッフ双方に安心、安全な介護が出来ることを学べました。 労働安全への意識がまだまだ低いことを認識できた。
24	何度も言われていた事は、ノーリフティングの理念で、福祉用具を使うことが目的ではなく、双方の健康保障が大切という事。 現場でまだまだ福祉用具の使い方だけを指導してきたが、徐々に理念に沿った指導をしていく。
25	リフトにより拘縮があった利用者の姿勢が改善される。 介助者の負担、利用者の負が減るだけではない
26	人口減少に対応できる施設、事業所づくり
27	組織作りのマネジメント・リスクマネジメントの重要性や目的共有の必要性 普及のための取り組み モデル施設づくりとマネジメント手法
28	リスクマネジメント「日々まわし続けるPDCA」を実行することで、腰痛だけでなくケアの質up、業務カイゼンができる。
29	PDCAのサイクルについて、また、高知での県をあげてのノーリフティングケアへの推進について
30	少ない人数でできる業務への切り替えること 実施すべきことは経験を問わない手法に変えること
31	少ない人数でできる業務に切り替える 職員全員が実施すべきことは経験を問わない手法に変える
32	浸透していく事の難しさ、良い道具方法があっても理解し、自身におとしこんでいくという大変さ、県をあげて行えているということにすごいと感じました。
33	時間をかけて考えて実践しないより、毎日行うことで上手くなっていく
34	職員全員でリスク抽出。(ヒヤリ、ハット) 今後、施設でも工夫していけたら良いと感じました。
35	①マイスター養成と技術教育リーダー養成の確立 ②ケアプランにもノーリフティングケアを入れこむ

36	<p>①これからの人財不足のために職員、ご利用者様に対して全体で考えるものということ</p> <p>②人の手は、使わないのではなく、大事なところに人の手を使うこと</p> <p>③組織全体の業務改善であること</p> <p>※抱え上げない介護という意味だと思っていましたが奥が深かったです</p>
37	<p>手技、技術ではない。リスクを抽出してマネジメントを行い、日々まわし続けるPDCAサイクルが出来たら本当に現場がかわれるんだと思いました。地域が変われば県がかわる県がかわれば国さえもかわるんではと思いました。日々忙しい中、挑戦、努力をされている下元先生素晴らしいと改めて思いました。</p>
38	<p>新しい事を始める際から定着まで数多くの御苦労を感じました。</p> <p>労働安全に袖を置き、職員や利用者のための取り組みがわかりやすかったです。</p> <p>定着させる為、リスクマネジメント体制と業務改善を同時に行う事は大変と自覚しました。</p>
39	<p>各々の法人トップの方から積極的にノーリフトを理解し、取り入れる意識が高いんだと驚きました。法人トップに向けたこの様な場を作って頂きたいとも印象として強く持ちました。</p>
40	ノーリフティングの社会変化について行けるか？
41	ヒヤリハットの上げ方と活用
42	少ない人数でできる業務に切り替える＝ノーリフティング
43	事例(実践に基づいた)の紹介
44	<p>13年に国の腰痛予防対策指針が出て翌14年にはノーリフティング事業を開始するという高知県のスピード感に驚きました。(福岡県の動きを私がしらぬだけ?)</p> <p>ノーリフトというのは組織風土を変えるPDCAサイクルが重要というのが肝に響きました。</p>
45	組織でも簡単・安心・安全に実施できるクオリティーの高いケアに転換
46	PDCAのサイクルの確立
47	
48	高知県の取り組みがまだたったの7年目だということ、もっと年数がたっているイメージだった(全国から注目されており、もっとたっているものと)
49	
50	<p>伝え方(やり方だけの伝達)がやはりまだ足りていない事が実感した。</p> <p>福祉用具を使える環境を整える(ケアマネを巻きこむ)大切さを知れました。</p>
51	<p>技術研修ばかり行っても本当にいろいろな技術を習得できるのは数人しかいない、それよりも技術・経験を問わない手法を取り入れた方が将来の為になる。</p>
52	<p>・2つのPDCA 組織作りのマネジメント(業務かいぜんを今後もっとおこなわなくてはと思っています。</p> <p>・ケアマネージャーと一緒にケアプランに動入することでケアプランについてもどうじにスタッフへ伝えることができるとの話もあり再度考えることができました。</p>
53	<p>「誰もが簡単に出来る経験を問わない」本当にそうあるべきだと思います。ノーリフトの実践と継続をしっかりと自分達のものに、「毎日やっていたら上手になる」こんな言葉が普通に出せるような職場にしていきます。</p>
54	
55	「安全第一」の観念の違い
56	<p>いつも研修先での体験談等をまじえたお話で理解しやすく自分の施設に置き換えて感じ取ることができました。今回特に基本的な教育体制では私たちの施設ではできていない事を多く感じました。それから人の手で行うこと何を残して何を機械化するのか業務の見直しの必要性が大事だともう一度気がついたところでした。</p>
57	<p>ノーリフティングケアの普及には、組織作りのマネジメントとリスクマネジメントの両方が必要だということ。これをしていくことで全体が良い方向に進んでいくのだと思えた。</p>
58	
59	
60	リスクについて、マネジメント
61	<p>・対象者への効果から労働安全へ少しづつシフトチェンジ</p> <p>・安心して働ける職場づくり</p>
62	職員全員で実施する日々のリスクの抽出
63	ヒヤリハットは気づきの段階で出して行く事
64	<p>ハインリッヒの法則のところ</p> <p>ヒヤリと思われるものを提出するだけでなく日々の生活の中で気づいたことを書き出し、委員会に振っていくということで、そうだなーと思った。</p>
65	<p>地域全体で人材育成をしていくという高知県の取りくみが聞いて理解できた。研修初日にお話がきけたら研修へも反映出来やすいと思った。</p>
66	<p>ノーリフティングケア普及のためには2つのPDCAをまわすことが大事である。「リスクマネジメント」では「ヒヤリハット」を集める。しかし、「ヒヤリハット」は対象者に害がない限りは「ヒヤリハット」として捉えにくい傾向にある為、日々「気づく」事で抽出し、PDCAで解決していく事が必要</p>
67	<p>介護のブームはさまざまあるけれど、1つのこと上手くいけば他の分野もスムーズに歯車が合うようになった…という現場の声。</p>
68	<p>対象者に対するケアのリスクマネジメントにおいて現在リフトやボードを使用しているが一度決まった事を続けていた様な気がした。PDCAサイクルをしっかりと活用し見直しを図る大切さを知った。</p>
69	<p>リスクマネジメントの重要性やPDCAサイクルをまわし続ける事の重要性</p> <p>気づいているのにヒヤリハットや事故に繋がるまで対策を取らない傾向にあるので小さな気づきでリスクの芽をつむことが大切と学びました。</p>

70	
71	介護される側する側双方に安心・安全とはどういった事かという事をまず理解する事が第一段階で目標設定をどのようにするか、次の年はどうかでステップupする仕組みを作る事が大切と感じました。何を求められているかを教え、1つ1つに対策を考え、まずやり通す事で見えてくるものがあると思いました。
72	こまかなヒヤリハットをあつめる事から始めるという事が具体的で取り組みやすいと思いました。